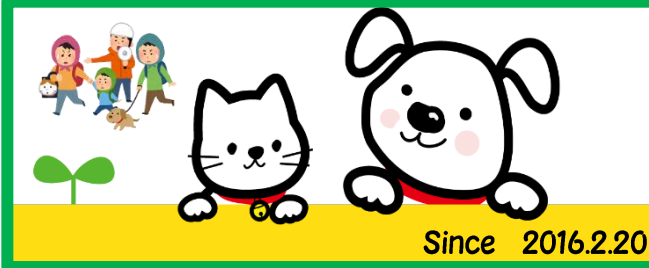


## ペットとぼうさい情報 No4



ホームページアドレス QR コードです↓



<http://www.geocities.jp/pettobousai2016/>

災害時、家族の一員であるペットはどうなるの？大地震で家が壊れたら、一緒に避難所に逃げられるのかしら？

こんな疑問を持った仲間が集まり、イザ！と言う時にペットと同行避難ができるように、ペットと飼い主さんの日常の備えの啓発活動や、災害時のペット同行避難所の設置を目指し、栗平・白鳥地域を拠点に活動をしているボランティアサークルです。

(現在 メンバー8名)

### 【 麻生区役所を訪問して来ました 】

川崎市として実施している「ペットに関する災害時や日常の取り組み」についての現状を把握するために、5月1日(月)、ペットとぼうさいメンバー8人で、麻生区役所の危機管理課と衛生課の担当職員の方々にお話を伺ってきました。聞き取りの一部を報告します。

◆現在、麻生区内の避難所は25ヶ所だが、ペット同行避難を可としている所は13ヶ所。

「同行避難は同室避難ではない」ことを避難所運営会議で共有し、同行避難が可となった。また、現在のところ、同一敷地内(校庭の片隅など)でペットの避難を考えている。

◆大規模な災害が起きた場合、川崎市では、動物愛護センター(現在は高津区、H30年度から中原区の予定)に、川崎市獣医師会等で構成される川崎市動物救援本部を設置する仕組みを作っている。本部では、様々な役割を担う多くのボランティアの配置を想定しているが、現在はこれに関するボランティア登録などはしていない。身近な地域で、動物救護病院として、被災動物の支援を担当するのは、獣医師会会員の動物病院であり、短期治療や一時保管を行う。麻生区では、現在8か所の動物病院が獣医師会会員となっている。

◆川崎市の総合防災訓練には、毎年、獣医師会も参加し連携をとっている。

◆H25年に予想された麻生区の避難者数は、約7,500人。避難所が25ヶ所であることから、平均300人が避難所に訪れることになる。発災直後、避難所には様々な人やペットが避難してくると予想される。同行避難の可否など避難所のルール適用は、直後は難しい。

◆毎年、川崎市では、9月に「動物愛護フェア」、11月に「適正飼養キャンペーン」イベントを実施し、ペットとの共生や躰についての啓発活動をしている。

◆動物愛護センターでは、子猫への哺乳・地域猫の活動・ペットの躰や訓練・譲渡会の手伝い等をボランティア登録者に協力してもらっているが、防災活動はしていない。ボランティア登録者は100名弱。麻生区で登録をしている方は2名。

◆麻生区の犬の登録頭数は、10,000弱。猫も同数いると言われている。一般的に、ペットは子どもの数より多いと言われている。このことから、ペットの問題は放置できないだろう。(H28年10月1日現在、麻生区の年少人口(0~14歳)は、23,639人。)

5月の定例会 ⇒ 5月20日(土) 午後3時から 栗平白鳥自治会館にて  
※都合により、日程や場所が変更になることがあります。ホームページでご確認ください。